
俺はヤクザかマフィアかそれとも、高校生か・・・

少年K

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺はヤクザかマフィアかそれとも、高校生か・・・

【Nコード】

N0760D

【作者名】

少年K

【あらすじ】

ヤクザ・・・タダの不良高校生がヤクザの仲間入りッスよ！

第1話

今日の俺は調子にのっていたようだ。何で、こんな事に。こいつ、絶対にヤバイ。本物のヤクザだ。俺の前にはのイレズミをした、大男が凄い形相で俺を見てやがる。まあ、俺からぶつかって喧嘩売ったわけだが、流石に殺される。

「俺に喧嘩売ってタダで済むとは思ってねえよなあ！」そんな、大きい声で言わなくても聞こえるっての・・・つか、不良をやっているとは言え、高校生がこんな、ヤクザに敵う筈が無い。秒殺される。はぁ・・・今日が俺の命日か。最後にチーズケーキ食いたかったな。

「また、やってるのか・・・血の気が多い奴だな」そんな時だった。後ろから声がした。畜生。こいつ等の仲間か？1人でも秒殺されるのに2人なんて瞬殺だな・・・こりゃ・・・「ああ！何だ文句あるのか！」「あるさ。此処は俺達の島だ。よその馬鹿は出ていきな」

「このガキをぶっ殺したら出て行ってやるよ」「そいつか・・・まだ、高校生じゃないか。許してやれよ」「ふざけんな！こいつは俺を怒らせた！ブチ殺さないと気がすまない！」なんか、話が勝手に進んでく・・・「まあ、此処は俺達の島だ。そいつを殺りたきや俺をまずは、殺してもらおうか？」睨んでいる。クールな顔に似合わないくらい、恐ろしい目だ。「ふん・・・此処で、お前と殺りあったら上がるせえからな。今は我慢しとくぜ」「物分りが良くて助かるよ」大男は俺を一睨みして、去っていった。何だ？助かったのか？つか、こいつは誰だ？助けてくれたのか？駄目だ・・・分からない事が多すぎる。

「よお。お前。あまり、はしゃぐなよ。お前は大切な人材なんだ。怪我でもしたら俺が困る。」はっ？何、言ってるんだこいつ・・・「人材？俺はお前なんか知らねえぞ」「直ぐに分かるさ。これからは、多分、長い付き合いになっていく。名前を覚えておこう。俺は、相川 翔だ。お前は？」「九重・・・九重 響だ」「良い名前だ。あ

の人がつけそうだな。」

誰だ・・・あの人?・・・「じゃあ、今日の用は此処までだ。また、今度会おう」クールな男は、去っていった。いったい、何なんだよ・・・意味不明だ・・・まあ、良い。帰ろう・・・

—翌日—

俺は朝っぱらから、信じられない光景を目の当たりにした。窓の外には黒服の男が大勢いた。

「な、何だよ・・・昨日の奴の仲間か・・・」昨日の奴とは傷の大男の事だ。「外に出てみるか」俺は意を決して外に出てみた。すると、「お早うございます!お待ちしておりました!」

何だ?待っていた?何を?俺をか?つか、何で敬語なんだ・・・だが、この敬語で少なくとも傷野朗の仲間じゃないな・・・「どうぞ!車にお乗り下さい!」此処で、逆らったらどうなるんだろう?そんな、事を考えつつも、ビビッて言えない。大人しく車に乗った。情けねえ・・・

「よお。また、会ったな。響」運転席には昨日の、クールな男が居た。相川とか言う奴だ。「これから、お前の親父さんに会いに行く。」親父!?!?何で、親父が出てくるんだ!今は、単身赴任でたしか、静岡に居ると聞いているが・・・「ああ。静岡に居るぜ。だから、静岡に会いに行くんだよ」こいつは、地理に弱い人間なのか?「ざけるな!此処は、神奈川だぞ?何時間掛かるんだよ!」「まあ、気長に待っててくれよ」まあ、良い。今は、そんな事より聞きたいことがある。「おい!お前と親父とはどういう関係なんだ!」「ああ。それか。あの人は俺のボスだ」ボス?意味不明だ・・・上司って事だろうか・・・つか、親父ってガンブラ工場の下っ端って聞いてたのだから・・・黒服ってガンブラ関係ねえよな・・・「まあ、深く考えるな。それより、今は説明しなくてはいけない事が、沢山ある。頭を切り替えてマジメに聞いてくれ」切り替えるなんて起用な真似

は出来ねえが、一応、頭には入れておこう。「まず、お前の親父はガンプ工場の社員だと言っていたな。それは、間違いだ。嘘っぱちだ。あの人の本当の職業は、ヤクザ・・・って言った方が良くなる。そのヤクザのボスを務めているお方だ」

よし、決定だ！こいつはボケている！脳障害だ！出会った時からナントナク、気づいてたさ！

「おい。人を何馬鹿言ってるの？見たいな目で見るのは止せ」そんなのは、無理な話だ。

「まあ、良しさ。話の続きをするぞ。ボスは自分の息子・・・つまり、君を4代目ボスにしたがっている。そこで、俺等が君を呼びに来たんだ」「よっ！俺の事、覚えてる？」そう言って、現れたのは、俺の従弟である。この人もヤクザか・・・最悪だ・・・この人がヤクザと言う事は、親戚のほとんどがヤクザか・・・「どうした！深刻な顔して！気楽にいけよ！」クソ野郎・・・気楽？無理だろ・・・

「こんな感じの話です。なるべく早く、続きを書く予定なので、楽しみにして下さい」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0760d/>

俺はヤクザかマフィアかそれとも、高校生か・・・

2010年10月30日14時39分発行